

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32682

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13854

研究課題名(和文)ドイツ地方自治体におけるトルコ系移民組織の公的承認をめぐる実態の解明

研究課題名(英文)Turkish Immigrant Organizations Struggle for Recognition in German Local Politics

研究代表者

昔農 英明(SEKINOU, HIDEAKI)

明治大学・文学部・専任講師

研究者番号：20759683

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):本研究は、ドイツにおけるローカル・レベルにおける移民統合の実態がいかなるものであるのかを、主としてトルコ系移民の活動を事例にして明らかにしたものである。本研究では、移民組織は一般的に出身国とのトランスナショナルな関係性、紐帯を有する一方で、ムスリムとマジョリティ社会との橋渡しの在り方、統合の実践の在り方がそれぞれの移民組織の統合に対する考え方、ドイツ社会に対する考え方などによってどのように異なるのかを実証的に明らかにした。とりわけ、そうした相違点は従来の研究で示されたような組織の政治的立ち位置、イデオロギー的な立場だけではなく、組織の中の世代間の相違によっても明らかに異なる点を示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来のドイツの移民の統合に関する国際社会学的研究においては、連邦政府の政策に注目することで、統合政策が移民の母文化の保障を軽視し、受け入れ国の言語・文化・生活様式を習得する移民の「同化」を推進するものであると批判的に論じられる傾向が見られた。これに対して本研究は、ローカルなレベルにおける統合政策と移民組織の活動の関係性を分析し、「同化」として単純にとらえがちな統合政策の多様な側面を実証的、理論的にあきらかにする学術的成果を上げることで、移民統合の社会学的研究の発展に寄与するものとなる。

研究成果の概要(英文): This study explores what role Turkish Islamic organizations play between German society and their own members in the local integration.

It is analyzed how different types of Islamic activism in Islamic organizations are involved in building bridges between Muslims and the larger society and promoting immigrants' integration in Germany, while they tend to have transnational social networks and ties in their country of origin. In addition to that, one has to consider not only the political ideology of Islamic organizations, which has been focused on in previous studies, but the intergenerational differences such as between the first and the second or third-generation immigrants.

研究分野：社会学

キーワード：統合 移民

1. 研究開始当初の背景

これまでの国内外のドイツにおける移民統合に関する研究は、大別すると、統合における「同化」の側面を批判的に捉える研究と、「統合」が移民のドイツ社会の編入に寄与する点を肯定的に評価する研究との二つがみられた。前者の研究では、2000年代以降、連邦レベルで進められるようになった統合政策が、受け入れ国の言語・文化・生活様式を習得するように移民に要求する一方で、移民の母文化の保障を等閑にする点で、移民の受け入れ国への「同化」を推進するものだとして批判的に論じる研究がみられた。他方で後者の研究では、統合政策は、それまでの移民の出身国とのつながりを重視し、受け入れ国において、マジョリティ社会と没交渉となる「平行社会」の形成を防ぐことにつながると統合を積極的に評価するものであった。

上記の先行研究が指摘するように、たしかに統合政策が移民を同化することにつながる面はみられ、そうした点を批判的に捉えることは重要ではある。しかしながら、他方で統合政策は「同化」の側面だけが確認できるわけでもない。というのも、上記の点は、統合政策を連邦レベルで検討した場合にみられる特徴であり、ローカルなレベルにおいては、統合は、連邦レベルとは異なる様相を呈する点が考えられるからである。

2. 研究の目的

本研究は、ドイツにおけるローカル・レベルにおける移民統合の実態がいかなるものであるのかを、主としてトルコ系移民の活動を事例にして明らかにしようとするものである。本研究がこのようなローカル・レベルにおける移民統合を論じる目的にあるのは、上記のような、これまでの移民の統合に関する研究において、顕著に見られる問題点を克服しようとする意図があった。本研究はこのような問題意識から、移民統合を連邦だけではなく、ローカル・レベルにおいて検討し、移民組織が統合政策のもとで、どのような活動を実践しているのか、その目的には何があるのかを明らかにするものである。

3. 研究の方法

本研究においては、連邦政府や自治体政府が要求する移民統合政策の基本方針に対して、それぞれの移民組織は、その基本方針を受けて、移民の受け入れ国への社会的・経済的統合の実践と文化活動との両立をどのように行っているのかという視点から検討を行った。

その際に、移民組織の政治的な立ち位置やイデオロギー的な違いだけではなく、移民の世代間の認識の相違が組織のあり方に大きく影響を与える点も考慮に入れて考察・分析した。すなわち移民組織の活動方針や活動内容において、組織運営の中心的な存在が第1世代から第2世代へと移行することにより、質的な変化がみられると考えられるからである。先行研究が明らかにしている通り、移民の第1世代では、どちらかといえば出身国との政治的なつながりやメンバー間の関係性に重点を置く傾向がみられるのに対して、第2世代以降となると、出身国との政治的なつながりだけではなく、むしろ受け入れ社会との関係、マジョリティ社会との関係性が重要となり、活動目的の重心が変化するとみられるとされる。

4. 研究成果

本研究では、移民組織の統合に対する対応のあり方はきわめて多様であり、そうした点を考慮に入れて分析すると、先行研究が指摘するような、受け入れ国への移民の一方的な同化とは言いがたい、統合の新たな側面を明らかにすることができた。そうした移民組織の統合にかかる対応の多様性は、それぞれの移民組織によって、また組織の中の世代間の相違によっても生じていることがわかった。移民組織は、既存の研究が明らかにしているように、一般的に出身国とのトランスナショナルな関係性・紐帯を有する一方で、受け入れ社会での統合の実践はそれぞれの移民組織の統合に対する考え方、ドイツ社会に対する考え方などによって大きく異なっている点が認められるものだった。こうして、移民組織によるムスリムとマジョリティ社会との橋渡しのあり方、考えなどに関しては相違点のみられる点が明らかになった。

また移民組織の出身国とのトランスナショナルな関係性・紐帯が認められるとするこれまでの研究が示すように、たしかに移民組織はその出身国との結びつきがあるにもかかわらず、本研究では、他方で、そうした結びつきが必ずしも移民の側において無条件に肯定的に捉えられているわけではない点も示した。受け入れ社会に居住する移民の側も、出身国のムスリムと受け入れ国のムスリムの置かれた社会経済的、文化的状況の違いを感じている。それゆえ、たとえば出身国と結びついた宗教指導者が必ずしも受け入れ社会の移民のニーズや認識、あるいはドイツ社会に適合的な人だとは限らないなどと認識している側面があ

り、むしろ移民側では、ドイツ語、ドイツの文化・慣習を理解している宗教指導者の必要性を認識している面もある。

また移民団体の中には、同胞集団だけではなく、広くイスラム教徒に対して、あるいは非イスラム教徒に対してすらも、イスラムに興味を抱き、自分たちの活動への理解を行ってもらうことを目的に、対話を促し、対外的な活動を行うことを重視する集団がある。そのため、自分たちの活動の政治的正当性を確保する意味においても、当該受け入れ社会の言語や生活習慣などを習得していることが重要であり、そのために受け入れ国に統合されていることは重要だと考えている側面がみられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 昔農英明 | 4. 巻 32 |
| 2. 論文標題 ドイツの難民保護とレイシズム | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 年報社会学論集 | 6. 最初と最後の頁 印刷中 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |
| 1. 著者名 昔農英明 | 4. 巻 22 |
| 2. 論文標題 ドイツにおけるトルコ系ムスリムの社会的排除：後期近代におけるナショナルな境界の再規定 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 三田社会学 | 6. 最初と最後の頁 111-124 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 昔農英明 | 4. 巻 23 |
| 2. 論文標題 難民をどのように統合するのか：ドイツの事例 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 移民研究年報 | 6. 最初と最後の頁 21-29 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |
| 1. 著者名 昔農英明 | 4. 巻 197 |
| 2. 論文標題 ドイツの移民統合政策の現状と課題 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Migrants Network | 6. 最初と最後の頁 30-31 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

| |
|-----------------------------|
| 1. 発表者名 昔農英明 |
| 2. 発表標題 ドイツの難民受け入れとレイシズム |
| 3. 学会等名 関東社会学会（招待講演） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------|
| 1. 発表者名 昔農英明 |
| 2. 発表標題 ドイツの移民政策 |
| 3. 学会等名 移住連セミナー（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|---------------------------------|
| 1. 発表者名 昔農英明 |
| 2. 発表標題 移民・難民の統合に向けたドイツの取り組み |
| 3. 学会等名 川崎市市民アカデミー連続講座（招待講演） |
| 4. 発表年 2017年 |

〔図書〕 計3件

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 小井土彰宏、飯尾真貴子、塩原良和、堀井里子、柄谷利恵子、伊藤るり、久保山亮、昔農英明、宣元錫、上林千恵子、鈴木江理子 | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 名古屋大学出版会 | 5. 総ページ数 369 |
| 3. 書名 移民受入の国際社会学：選別メカニズムの比較分析 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 渋谷淳一、本田量久、昔農英明ほか | 4. 発行年 2017年 |
| 2. 出版社 旬報社 | 5. 総ページ数 391 |
| 3. 書名 21世紀国際社会を考える : 多層的な世界を読み解く38章 | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 駒井洋、柏崎千佳子、是川夕、鈴木江理子、明石純一、高橋済、児玉晃一、昔農英明ほか | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 明石書店 | 5. 総ページ数 292 |
| 3. 書名 移民政策のフロンティア : 日本の歩みと課題を問い直す | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|--|---------------------------|-----------------------|----|
|--|---------------------------|-----------------------|----|